平成29年7月14日発行
島根県高等学校PTA連合会

島根高P連だより

第52号
2017.7.14

発行・編集　島根県高等学校PTA連合会事務局　松江市黒田町538　TEL／0852-22-8602　FAX／0852-22-8735
E-mail：shimakp@orange.ocn.ne.jp　URL：http://www.shimakp.sakura.ne.jp/

田植え実習

松江農林高校

サンレイク集団宿泊研修

食の縁結び甲子園全国大会

2年スキー研修（大山）

全国高校駅伝応援

平田高校

しまね教育の日ボランティア活動

ＪＲＣ部募金活動

体育祭

津和野高校

弓道部～一射に心を込めて

吹奏楽部～青春を奏でよう！

地域行事への参加～お田植え祭

津高祭での応援合戦

目　次

■就任ごあいさつ「家庭の力」
島根県高Ｐ連会長　大　屋　光　宏 …… 2
■「学ぶこと」「生きること」
島根県教育委員会教育長　鴨　木　　朗 …… 2
■平成29年度総会開催 …… 3
■魅力ある島根の古代文化
島根県立八雲立つ風土記の丘　所長　松　本　岩　雄 …… 4
■第70回全国高等学校PTA連合会大会島根大会
2020年開催内定!! …… 4
■PTA活動紹介　三刀屋高校掛合分校 …… 5
吉賀高校
■平成29年度人権・同和教育「PTA活動」育成事業 …… 6

就任ごあいさつ「家庭の力」

島根県高等学校ＰＴＡ連合会長
（島根県立矢上高等学校ＰＴＡ会長）
大屋　光宏

昨年度に引き続き島根県高Ｐ連の会長を務めます、大屋光宏です。みなさまには、日ごろのＰＴＡ活動への参加と協力に対して心よりお礼申し上げます。

近年は、ＰＴＡ活動をはじめ様々な社会的活動が、その存在意義を問われるとともに会員の減少、行事への参加率の低下が課題となっています。

高校のＰＴＡの目的は、子どもたちの学力、体力そして心の健やかな成長のための活動であると思います。そのため、各校のＰＴＡは、学力向上のための支援、部活動の支援などを行っています。変化の激しい時代に、子どもたちにアドバイスをするためには自らの研修も必要です。

そして、私たち保護者がＰＴＡ活動を始めとする社会的活動へ参加する意義は、「社会性」と「高い規範意識」を身につけることだと思います。日本の大学生は国際的にはボランティア意識が低いといわれています。ネット社会は急速に発達していますが、ルール作りが追い付いていません。著作権、誹謗中傷など自らの高い規範意識がなければ、知らないうちに犯罪に加担する場合もあります。

子どもたちにとって一番身近な大人は保護者です。子どもたちの心の健やかな成長のためにも、ＰＴＡ活動に参加していただき「社会性」と「規範意識」の向上に努め、いつまでも子どもたちのお手本となれるよう願っています。

さて、本年度の本会の活動は、「特別会計」による事業の開始、会員数減少による収入減や人件費負担の見直し等による会費の値上げと賠償責任補償制度の県単独実施など昨年度まで準備をしてきたことを本格的に実施します。「特別会計」による事業は、国際的なスポーツ大会等へ参加する生徒への激励費の贈呈のほか単位ＰＴＡが地域等と連携して実施する研修会への支援を行います。また、平成32年度の全国高Ｐ連大会を島根県で実施するための準備を始めます。

学校は地域との連携を求められています。平成32年度は東京オリンピック・パラリンピックの年であり大学入試制度も変わります。大きく時代が変化する中で、ＰＴＡも子どもたちの手本であるとともに期待される組織であり続けるための役割を果たしていきたいと考えています。今後もご理解とご協力をお願いします。

「学ぶこと」「生きること」

島根県教育委員会教育長
鴨木　朗

学校の教育活動は、保護者の皆様のご理解とご協力なくしては成り立ちません。それぞれの高校を力強く支えていただいていることに対しまして、心より感謝申し上げます。

さて、私は、微力ながら教育長の職責を果たしていくうえで肝に銘じていることがあります。

一点目は、そもそも教育委員会は教育現場を支えるために存在している、という教育行政の原点を大切にすること。

二点目は、戦後採用された「レイマンコントロール」の仕組みを大切にすること。「レイマン」すなわち「市民感覚を持った良識ある大人」としての教育委員が、話し合いによって教育の大きな方向性を示し、これを受けて学校や教育行政の専門家集団（教職員）がそれを誠実に具体化しようと努める。この仕組みは、歴史の中で大きな代償を払って手に入れた「人間の知恵と経験の結晶」のように感じられます。

三点目は、教育の目標とは、社会の中で生き抜いていく「本物の力」の育成であることを、学校と教育委員会が正しく認識すること。そして、私は、島根の子どもたちに「本物の力」を身につけてもらうために、次のような取り組みが大切と考えています。

一つは、「学ぶ意欲」と「学習習慣」との間の好循環がうまく回りだすように、子どもに働きかけることです。「学ぶ意欲」と「学習習慣」は鶏と卵の関係にあると思います。どちらを先行させると好循環が回りだすのか、子どもの個性や事情に応じて、ふさわしいアプローチがあるでしょう。

もう一つは、「学ぶこと」と「生きること」との関係をよく理解できるように、長い目でじっくりと子どもの成長に働きかけていくことです。これは教育の根幹のようなものだと思います。より良く生きるために学び続けることが大切だということを、島根の子どもたちに深く理解してもらいたい。

このことを学校・家庭・地域の連携の中で実現することが、島根らしい教育の魅力になると考えています。

平成二十九年度島根県高等学校ＰＴＡ連合会総会開催

平成二十九年度定期総会は、六月十日（土）松江サンラポーむらくもで、代議員七十三名が出席して開催された。

大屋会長は、開会に当たり県高Ｐ連の様々な活動にご協力をいただいていることに感謝の意を表した。その後、学校現場における様々な課題に地域の大人が関わる機会が増えてきたが、このことは決して保護者の重要度が低下したものではなく、家庭や保護者の果たすべき役割を再認識し、学校と家庭が一緒になって子どもたちを育てようと述べた。

また、来賓の島根県教育委員会鴨木朗教育長からは、日頃の学校運営に対し保護者の理解・協力に対し謝意を表した後、教育の目標は子どもがこれからの社会の中で生き抜いていく「本物の力」を育成することであり、この「本物の力」を学校と保護者が協力して育成しようという呼びかけがあった。

その後、島根県立八雲立つ風土記の丘の松本岩雄所長より「魅力ある島根の古代文化」と題した講演を聴き、研鑽を深めた。詳細は④ページに掲載している。

その後、議事に入り、大屋会長を議長に選び、第一～六号議案を承認後、第七号議案で左表の通り新役員が決定した。そして新旧役員からそれぞれ挨拶があった。続いて、大屋会長を議長に再選し、第八号議案以下、提案された議案はすべて承認された。

次に提出議案を紹介する。

一、平成二十八年度会務・事業報告
二、平成二十八年度会計決算及び監査報告
三、特別会計要綱（案）
四、特別会計要綱４条による「単位ＰＴＡ活性化に関わる事業助成金要領（案）」
五、スポーツ競技・コンテスト等世界大会の出場者に対する会長激励費贈呈要領（案）
六、県高Ｐ連関係各表彰の被表彰者の決定並びに全高Ｐ連等表彰等の推薦
七、平成二十九年度役員（案）
八、平成二十九年度活動方針（案）
九、平成二十九年度主要行事予定（案）
十、平成二十九年度予算（案）
十一、報告事項

第六号議案については、表彰規定によって、総会直後の表彰式で大屋会長から次の方々に表彰状が贈呈され、永年のご苦労とご功績に対して謝意を表した。

表彰状贈呈（敬称略）

須山　充彦（三刀屋高校掛合分校）
福間　肇（平田高校）
髙野　伸介（出雲工業高校）
塚本　功治（出雲農林高校）
高橋　信治（大社高校）
福井　義信（島根中央高校）
江木　勝義（浜田水産高校）
宇野　将之（隠岐島前高校）

また、全国高Ｐ連会長表彰に次の二団体と一個人を推薦することとした。そして、優良ＰＴＡ文部科学大臣表彰候補に、隠岐島前高校を推薦することとした。

平成二十九年度
全国高Ｐ連会長表彰（推薦）
団体表彰候補
隠岐島前高等学校ＰＴＡ
松江南高等学校ＰＴＡ
個人表彰候補（敬称略）
松本　真佐子（松江東高校）

平成二十九年度
優良ＰＴＡ文部科学大臣表彰候補（推薦）
隠岐島前高等学校ＰＴＡ

鴨木朗県教育長挨拶

新役員紹介

平成29年度島根県高等学校ＰＴＡ連合会役員表

役員	選出地区等	氏名	所属高校	（所属校校長）
会長	西部	大屋光宏	矢上	（古居　晃）
副会長	東部	加納孝通	松江北	（小山　理久）
	中部	勝部　栄	平田	（井村　孝之）
	女性代表	塩毛七栄	松江東	（永瀬　嘉之）
	校長協会	古居　晃	矢上	
評議員	松江	安部山正一	松江南	（高橋　泰幸）
		野々村卓也	松江農林	（吉川　靖）
	雲南	田部宏幸	飯南	（秦　勉）
	出雲	石橋慶一	出雲	（飯塚　勝）
	大田	郷原寿夫	邇摩	（三島　祐司）
	浜田	山田義則	江津	（宮島　忠史）
	益田	増本祥子	吉賀	（熊谷　修山）
監事	東部	中西　誠	松江工業	
	中部	名原好昭	三刀屋	
	西部	豊田さゆり	浜田水産	
事務局	事務局長	勝部昌幸		
	事務局次長	恩田佳雄		
	事務局員	加藤淳子		

平成二十九年度総会・研修
魅力ある島根の古代文化

島根県立八雲立つ風土記の丘
所長　松本　岩雄

県内の学校ではふるさと教育が進められ、子どもたちが島根の豊かな自然や歴史や文化等についての認識を深め、ふるさとへの愛着や誇りをさらに高めていく取り組みが行われている。今年度の総会時には島根県八雲立つ風土記の丘所長の松本岩雄氏を招聘し、「魅力ある島根の古代文化」という題でご講演をいただき、研修を行った。以下は、そのときの内容を含めて、講師の松本所長様にまとめていただいたものである。

島根県、その中でもとりわけ出雲地域は「神々の国」というイメージが強い。記紀（『古事記』『日本書紀』）で出雲を舞台とする神話が多くを占めているからであろう。日本統一の由来を物語る記紀神話のなかで、なぜ出雲が多く登場するのであろうか。それを証明する出雲の考古学的資料は注目されるものが少なく、記紀は中央の権力者が作成したものであることから、実態とは無縁のものとされてきた。

ところが１９８４・８５年に出雲市斐川町の荒神谷遺跡で、銅剣３５８本・銅矛16本・銅鐸６個もの大量の青銅器が出土した。当時、全国各地で発見された銅剣をすべて集めても約３００本であったことから、１か所で３５８本も出土したことは驚異的なことであった。さらに、１９９６年には雲南市の加茂岩倉遺跡から史上最多となる39個の銅鐸が出土し、弥生時代の出雲は列島のなかでもとりわけ重要な地域であることが明らかになった。

荒神谷・加茂岩倉遺跡の青銅器を詳しく観察すると近畿産とみられる銅鐸、九州産とみられる銅矛のほか出雲産と推測される青銅器（銅剣３５８本・銅鐸４個）が含まれていることがわかる。九州や近畿をはじめとする広域にわたる交流を示すばかりではなく、出雲独自の青銅器を作っていたというところに大きな特徴がある。

ところで、島根といえば多くの人は出雲大社を思い浮かぶ。出雲大社の神主は、国譲り神話で高天原から最初に遣わされた天穂日命を祖とする出雲国造家で、現在まで一貫して継承している稀有な存在である。出雲国造家には『金輪御造営差図』という不思議な図面が伝えられていた。本殿の平面図であるが、３本の円柱を金輪で束ねた径３ｍもの巨大柱、長さ１０９ｍにも及ぶ長大な階段が記されており、ほとんどの建築学者は実在しない空想の本殿と考えていた。

ところが、２０００年に出雲大社境内において、３本束ねの巨大柱が発掘され、これまでの日本建築では考えられなかった巨大な本殿の実在が証明された。

近年の島根における考古学的調査の成果は、日本の歴史や文化を考えるうえで極めて重要な意味を持つことを立証したことから、日本史の教科書にも取り上げられるようになった。

講演中の松本岩雄所長

第70回全国高等学校ＰＴＡ連合会大会島根大会 2020年開催内定!!

６月24日（土）に東京ガーデンパレスで開かれた全国高Ｐ連定時総会において、平成32年（2020年）の全国高Ｐ連大会を島根県で開催することが内定した。県高Ｐ連では、これを受けて大会の成功に向けて今年度より準備を進めていく。加盟校36校という小さな規模の県が、参加者約10,000人の大会を企画・運営しておくことは、たくさんの課題があると思われるが、大会を通じて島根県の良さを情報発信することはもとより、加盟校のＰＴＡが学校枠を越えて力をあわせて一つになることは、今後の各高校ＰＴＡの活発な活動展開と島根県の高等学校教育の発展に大いに寄与できると考える。７月３日（月）には、このことについて報告と協力依頼のために、大屋光宏会長が溝口善兵衛県知事、鴨木朗県教育長、松浦正敬松江市長、清水伸夫松江市教育長をそれぞれ表敬訪問した。今後、会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いする。

受諾挨拶をする大屋光宏会長

溝口善兵衛県知事表敬訪問

松浦正敬松江市長表敬訪問

予定される準備スケジュール等

１　期　　日（予定案）平成32年８月20日（木）・21日（金）
２　開催場所（予定案）全体会会場（主会場）　松江市内
　　分科会会場　東部地区（主会場を含む）
３　今後の主な準備（予定案）
　平成29年５月　全国大会準備対策員会設置
　平成30年７月　準備委員会設置
　平成31年４月　実行委員会設置
　　８月　第69回京都大会閉会式にて島根大会ＰＲ
　平成32年８月　第70回全国高等学校ＰＴＡ連合会大会 島根大会開催

PTA活動紹介

「親子の絆をより確かなものに」

島根県立三刀屋高等学校掛合分校
PTA会長　石原公夫

島根県内の分校が相次いでその歴史に幕を下ろす中、掛合分校だけは県内唯一の分校として今なおその歴史を刻み続けています。今年で創立64年目を迎えました。

掛合分校PTAでは例年文化祭の2日目に子ども達と一緒になった模擬店を出すことで学校行事に関わりを持たせてもらっています。親子間の会話が乏しくなったと言われる昨今、ともすれば親は仕事の忙しさにかまけて、子は子で授業や課外活動・通塾などとゆとりのあまりない生活を送っていることから、自ずとすれ違いになりがちです。ましてや高校生ともなると親子が一緒に汗を流す機会など極めて珍しいことに違いありません。

保護者からすると、わが子が実際にどんな様子で学校生活を送っているのだろうかと知りたい面も当然ありますが、親が学校に出掛けて子と一緒に作業をするなどというのは、思春期特有の心理状態もあり、子どもが親を煙たがり気まずい雰囲気になるのではないかと案じて自然に足が遠のきがちです。私はわが子が掛合分校に入学した一昨年の文化祭から、代議員を受けた手前もあり意を決して学校に出向きました。

実際に文化祭の手伝いに出掛けてみると、子ども達とは勿論、他の保護者や地域の方々と交わす言葉と挨拶はとても自然で気持ち良く、子ども達も受け入れてくれている様子で、同じ目的に向かって努力した充実感は何ものにも代え難い有意義なものでした。心配も杞憂に終わったことが分かりました。

殊に地域を巻き込んだ掛合分校のコラボ文化祭（3回を数える）は実に規模が大きく、地域の方々にとっても郷土芸能や茶華道の発表や展示の場となったり、地域の歴史を紐解き伝承させる絶好の機会となったりしています。そこには年齢・世代を超えた交わりが存在するといっても過言ではありません。子ども達は地域の大人からたくさんのことを教わり、大人は大人で地域を担ってくれそうな若者達と直接会話ができる喜びを感じておられるに違いありません。

私が関わった一昨年と昨年は、先生の指示のもと子ども達が腕を振るって作った洋風・和風の料理やデザートの盛り付けを保護者が手伝い、併せて配膳も請け負いました。調理をしながら文化祭ステージの出番を待つ子ども達に、親達がしっかりとバックアップしてやることができました。また子ども達が作った料理メニューと重ならないようにと、保護者独自で飲み物も販売しつつ多くの来場者に満足してもらうことができたと考えています。本当に充実したPTA活動だったと思っています。

文化祭模擬店

吉賀高校PTA活動

島根県立吉賀高等学校
PTA会長　増本祥子

吉賀高校は島根県西南端の中山間地に位置する小規模校です。他校に比べれば生徒数、PTA会員数ともに少ないですが、「小さな学校で大きな夢を！」「吉い高（よしいこう）」を合い言葉にPTA活動に取り組んでいます。

PTA活動の主なものを紹介します。

○「中国・四国地区高等学校PTA連合会大会」への参加

他校のPTA活動の内容を参考にさせていただくことはもちろんのこと、PTA役員の親睦・交流を深めることも兼ねて、例年10名程度で参加をしています。PTAの活動を充実させるには、まず多くの会員に気軽に参加してもらうことが必要だと考え、交流を深めながら明るく楽しいPTA活動につなげていくことを意識しています。

○「よしか祭」バザーへの出店

「よしか祭」は吉賀高校の学園祭です。生徒達が模擬店を出店する際にPTA会員も焼きそばなどの模擬店を出店しています。

また、学園祭当日の朝、隣町の益田市内から新鮮な食材を仕入れて販売もしています。地域の方々の中には遠くまで外出することが難しい方もおられ、新鮮な食材の販売を毎年楽しみにしていただいています。

○「中高合同ロードレース大会」での豚汁提供

ロードレース大会当日に集合し、走り終わった生徒の皆さんに提供する豚汁作りを毎年行っています。連携型中高一貫教育の関係で吉賀町内の中学生と高校生とが合同でロードレース大会に臨んでいるため、作る量も多く準備が大変ですが、ねぎらいの一杯となるように心を込めて作っています。

○研修委員会「親学プログラム」の実施

吉賀高校のPTA役員は、生活指導委員会・研修委員会・編集委員会の3つの委員会のうちのいずれかに属しています。そのうちの一つの研修委員会では平成二十八年度に「親学プログラム」を吉賀町内中学生の保護者にも呼びかけて実施しました。「親学プログラム」とは親同士の交流を通して親としての役割や子どもとのかかわり方の気づきを促す、参加型の学習プログラムです。今年度も継続して実施することを検討しています。

平成28年度
「親学プログラム」

PTAバザー（焼きそば）

平成二十九年度人権・同和教育「ＰＴＡ活動」育成事業

～人権・同和教育研修会～

平成二十九年五月九日（火）に、島根県松江合同庁舎で開催された。この事業は、島根県教育員会が、県内の幼稚園・こども園、小・中学校、高校、特別支援学校のＰＴＡから単位ＰＴＡをモデル指定し、ＰＴＡ会員一人一人が様々な人権問題に対する正しい理解や認識を深めるとともに、学校や家庭における人権・同和教育のより効果的な推進を図る目的で毎年行われている。当連合会からは、平成二十八年度・二十九年度の育成事業指定ＰＴＡである飯南高校ＰＴＡの他、参加希望のあった単位ＰＴＡから十四名が参加した。飯南高校ＰＴＡは、田部宏幸ＰＴＡ会長が中間発表を行った。飯南高校では人権教育を「個性の尊重」ととらえ、子どもたちが自らの個性や特色を自覚し、認め合う態度を養うために、保護者の支援のあり方を考えることを事業のねらいとして、人権についての意識調査、広報、講演会、研修委員役員会などの活動について発表があった。また、飯南高校には県外からの生徒も入学してきており、町内にホストファミリー制度をつくり、第二のふるさと、第二の孫としてその生徒たちを迎え入れていることについての発表もあった。午後からは、人権同和教育課飯国秀忠社会教育主事の「一人一人を大切にするとは」と題する講演があり、参加者がいろいろなワークをしながら、最後に子どもたちが自分のことを大切にされていると実感できるために、地域全体（学校・家庭・地域が一体となって）で、子どもたちの言動の背景を理解することに努め、子どもたちにかかわっていきましょうという話があった。私たち一人一人が人権感覚を高めることだけでなく、その感覚の連携も重要であることが改めて理解できた。毎年、この時期に実施されるこの研修会に是非参加していただきたい。

発表する田部宏幸飯南高校ＰＴＡ会長

島根県内の企業が大集合

高校生のうちに
進学後の仕事、考えませんか？

企業・仕事発見セミナー

【西部地区】
日時：7月 29 日（土）13:00 ～
場所：島根県立石見武道館

【東部地区】
日時：7月 30 日（日）12:50 ～
場所：くにびきメッセ

対象：進学を希望する高校生
そして保護者、教職員

島根県教育委員会　教育指導課　検索

主催：島根県教育委員会・島根県商工労働部

宿泊費・交通費助成制度※

高校生向けインターンシップ

しまねわくわく仕事体験

県内事業所理解・県内就職促進

対象　島根県内の高校生
（応募前企業見学にもご利用いただけます。）

「しまねわくわく仕事体験」は、**自宅等から通勤が困難な島根県内企業へのインターンシップ参加を支援するための宿泊費と交通費の助成制度です。**学校を通してお申込みいただき、ジョブカフェしまねで調整（マッチング）します。マッチング決定後、決定通知書と宿泊・往復交通分のチケットをお送りします。

※自宅から通勤可能な事業所へのインターンシップはこの事業の対象となりません。

詳細・受入事業所一覧は WEB にて！

しまねわくわく仕事体験　検索

＜お問合せ＞
ジョブカフェしまね（公財）ふるさと島根定住財団
インターンシップサポートデスク　TEL：0120-34-0451（中澤・奥田）

事務局だより

6月24日に開催された全国高Ｐ連総会において、平成32年の全国高Ｐ連大会を島根県で開催することが内定しました。この4月より全国大会準備のため事務局に入りました恩田佳雄といいます。勝部昌幸事務局長、加藤淳子事務局員ともどもよろしくお願い致します。

わが家では米を作っています。田植えや稲刈りは営農組合にお願いして、げしの草刈りと水の管理をもっぱら行っています。6月中旬に水を田んぼに入れず、中干し行いますが、今年は梅雨入りにもかかわらず、雨は少ない状況で、今のところ楽に中干しができそうです。中干しをすると根が水を求めて下へ下へ伸び、倒伏しにくい稲が育ちます。教育も同じで、子どもに何でも与え過ぎず、自分で考え、自分でしっかり根を張らせることも必要だと思っていましたが、わが子のことになるとつい甘やかしたり与えすぎて、稲の中干しの方がはるかに簡単だと今頃思っています。

6月10日の県高Ｐ連総会で「特別会計要綱」が承認され、この中の4条による「各単位ＰＴＡ活性化に関わる事業助成金要領」が制定されました。これは、単位ＰＴＡが主催し高Ｐ連が後援する(1)学校や地域の活性化を目的として、行政や地域団体などと共同して行う事業(2)ＰＴＡ活動の活性化を目的として、2つ以上の単位ＰＴＡが共同して行う事業に助成するものです。教育は、学校に加えて家庭や保護者そして地域や行政の協力が不可欠です。この要領は、各学校のＰＴＡ活動をさらに活性化させ、子どもたちの健全育成を推進する活動に資すればという願いで制定された制度です。ぜひご活用ください。